



7/20~22 過去最高 3日間で77本のカジキ!

下田国際カジキ釣り大会が下田港沖で開催されました。黒潮の接近と天候にも恵まれ、大会史上最高となる77本のカジキがあがり、30回の記念大会にふさわしい盛り上がりを見せました。



8/19 ライフセーバーが表敬訪問

オーストラリアから2人の女性ライフセーバーが来田。白浜や吉佐美地区の海水浴場で姉妹クラブ提携を結ぶ下田ライフセービングクラブのメンバーと共にパトロールやトレーニングを行い、知識・技術の交流を図りました。



8/11 市指定民俗無形文化財「山階権現祭幡廻し」

加増野の報本寺で、「山階権現祭幡廻し」が行われました。長さ10mの真竹の根元を8人の若衆が支え、後引きといわれる若衆10数人が、境内を勢よく引き廻し、倒すことなく廻しきれば豊作で厄病は退散すると伝えられています。



8/14・15 雄壮! 太鼓橋

暑い日差しが照りつける中、下田八幡神社例大祭(下田太鼓祭り)が行われました。御神輿や御道具を担ぐ威勢の良いかけ声と太鼓や笛の音が響き、旧町内は祭り一色となりました。太鼓橋を組み上げる若い衆の熱気と見事なアーチに観衆も一体となって大いに盛り上がりました。



8/18 元気に 楽しく 子育てを

「まちの将来を担う子ども達を大切にしたい」「お母さんの子育てを応援したい」と、市内在住の絵本作家、鈴木まもるさんより、絵本「みんなあかちゃんだった」300冊が市に託されました。この絵本は、鈴木さんの香書で図書館やおもちゃばこ等の子育て支援事業の会場にて閲覧できるほか、5か月児を対象とした離乳食教室で保護者にプレゼントされます。

3日	下田市職員採用試験(第一次)	25日	共立湊病院組合議会
7日	ごみポイ捨て禁止キャンペーン		伊豆斎場組合議会
19日	下田市スポーツ祭総合開会式	26日	下田地区消防組合議会
20日	第3回南伊豆地区1市3町合併協議会	27日	男女協同参画講演会
21日	県民の日		「子育てと絵本と鳥の巣の不思議」
		29日	南豆衛生プラント組合議会

下田市内の指定文化財 その38

四天王像

所在地 蓮台寺 天神社
 指定日 昭和56年8月7日
 今回ご紹介するのは、神社の収蔵庫で、重要文化財の大日如来像を守るように安置されている四天王の立像です。



大日如来像と四天王像

四天王とは

仏教では、世界の中心に須弥山という山があり、その中腹に、魔や災害からこの世界を守る神がいるといえます。これが四天王で、持国天が東、増長天が南、広目天が西、多聞天が北を守るのです。

天神社の四天王
 天神社四天王像は、甲冑で身を固め武器を持つ、典型的な像です。



江戸時代製作の広目天(写真右)と平安時代製作の持国天(写真左)

な像です。現在、それぞれの像は赤(持国天)・緑(増長天)・肉色(広目天)・青色(多聞天)と違った身色をしています。身色は方角を表しています。

ところで天神社の像には不思議な点があります。4体の像は大日如来の左右に2体ずつ立ちますが、左右とも手前より奥の像のほうが、頭一つ分大きいのです。また、手前の像の顔が大きく、手足が短くて寸詰まった体型なのに対し、奥の2体は実際の人に近い姿です。なぜこのような違いがあるのでしょうか。

二天から四天王へ

仏像の周囲を守る神将としては四天王が有名ですが、古い時代には多聞天と持国天、あるいは持国天と増長天のみある二天像を作ること多かつたようです。特に伊豆では、河津の南禅寺や、下田市大賀の曹洞院の二天立像のように、古代の二天像が多く知られています。恐らく天神社像も、二天だったものを、江戸時代に2体を加えて四天王にしたのでしょう。

仏像は、制作当時と同じ姿で現代まで伝えられてきたと思われがちです。しかし実際は何度も修理を経て、姿や役割が変わる場合もありました。天神社の二天は江戸時代、四天王に変身しました。その背景には当時の人たちの信仰や思いがあったはず。仏像はそのような歴史も教えてくれる貴重な文化財なのです。

（市文化財保護審議委員田島）
 アクセス
 伊豆急下田駅より蓮台寺方面行きバス天神下バス停下車徒歩3分
 問合せ先
 教育委員会生涯学習課
 ☎5055

市役所から
 ほんのすは
 vol.1

市民の皆さんに身近な市役所を目指し、直接業務を担当する職員が、事務事業の取り組みの状況などをお伝えする新コーナーをスタートします。

市民の皆さんに身近な市役所を目指し、直接業務を担当する職員が、事務事業の取り組みの状況などをお伝えする新コーナーをスタートします。

12月に開催の「第9回静岡県市町村対抗駅伝競走大会」に向けて、下田市チームの全体練習が9月から始まります。今年の候補選手には小学生から一般まで約30人の応募がありました。選手登録されるのは最大20人。さらに、本番でコースを走る正選手に選ばれるのは11人となります。練習時のタイムや調子などを基に選考されていくのですから、候補選手たちの中では既に駅伝大会がスタートしているのです。

昨年の下田市は市の部で27チーム中26位、2時間30分29秒という記録でした。今回はこの記録を上回ることを目標に掲げ、一つでも上の順位を目指しています。小さな市町

は人口も少なく不利な条件ばかりですが、下田市チームは自己への「挑戦」をしていきます。チームを牽引するのは昨年引き続き太田真康監督と佐藤健コーチです。

駅伝大会は、本番の華やかさや結果ばかりが目立りますが、走りながら、まちなかを代表として走るのには、喜びだけでなく、むしろ、期待や責任を背負う重圧感であったり、苦しさや悔しさといった思いを感じることも多いはず。監督やコーチにしても、正選手を絞り込む選考には身を切るようなつらさもあるでしょう。その他実行委員会スタッフの地味なサポートにも見えない苦労があるのだと思います。



（生涯学習課 芹澤直人）